

平成30年度 太良町立大浦小学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ひこばえの心を持ち、強く・かしく・美しく生きる子どもの育成を図る。	(1) 教育相談体制を強化し個に応じた指導を行うとともに、良好な学級集団づくりの充実を図る。 (2) 確かな学力向上を推進するとともに、主体的な学びを育成するための学習環境の充実を図る。 (3) 児童の豊かな心を育成するとともに、自他の良さを認め、互いに協力し合う心の育成を図る。 (4) 学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革をめざす教職員集団作りの充実を図る。

重点目標を達成するために、「ホットでほとなチーム大浦小！」を合言葉にして取り組みます。

3 目標・評価

①教育相談体制の強化による個に応じた指導と、良好な学級集団づくりの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●心の教育	①特別の教科「道徳」の充実 ②教育相談・特別支援教育の充実 ③人権意識の向上	①道徳の授業を充実させる。6月の日曜参観時に全学級でふれあい道徳の授業を行う。 ②毎月子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図る。 ③QUアンケート、分析を行い、対策を考える。 ④全校朝会での話や、人権週間・人権集会等の取組を通して、人を思いやる心や命を大切にすることを育てる。	①6月に「ふれあい道徳」の時間を設定し、保護者へ啓発のための学級通信を発行する。 ②毎月第2水曜日に子ども支援会議を行い、全職員で共通理解を図り、支援にあたる。 ③年2回(6月・12月)QUアンケートを実施し、学力テスト(CRT)とのバッテリー分析を行い、より児童の実態に沿った支援や対策を行う。 ④全校朝会で担当者が話をして、人権意識を高められるようにする。8月に平和集会、12月に人権週間、人権集会を行う。	心・体プロジェクト
	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止	①毎月心のアンケートを実施する。 ②いじめ未然防止のための職員研修を行う。	①心のアンケートを実施し、いじめの前兆を早期にとらえて迅速に対応にあたる。 ②職員研修を行い、職員のカウンセリングマインドの向上につとめる。	
	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・ひこばえががんばりカードを毎月実施し、生活習慣の定着と家庭との連携を行う。	・「早寝早起き朝ごはん」の基本的な生活習慣の定着をめざして、指導(声かけ・コメント)する。	

②確かな学力の推進と、主体的な学びを育成するための学習環境の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	●学力の向上	①基礎的、基本的事項の確かな定着 ②新学習指導要領の移行期を意識した校内研究の推進 ③家庭学習、家庭生活習慣の定着	①チャレンジタイム・ステッププリント等に取り組むことにより、国語科と算数科における評価テストの知識・理解、技能項目で、年間到達度80を上回る児童を80%以上とする。 ②新学習指導要領に対応した学習活動の研究を行う。(特別の教科「道徳」、「外国語」、各教科等) ③ひこばえががんばりカード等を活用して、学習、生活習慣の定着を図り、「目標達成できた」と答える児童を80%以上とする。	①チャレンジタイムとして、言葉・計算の時間を設定する。学力向上コーナーにステッププリントを常設し、児童が必要に応じて取り組めるようにする。 ②全担任による提案授業を行い、全職員で研修を深める。 ③定期的な実施、分析し、取組の成果や課題を児童や保護者に伝えて改善を図る。	学力向上プロジェクト
	○教育の資質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用した授業の推進	・アンケートで「ICT活用に関わる教材を活用した授業ができた」と答える職員を90%以上にする。	・電子黒板に関わる電子教材を充実させ、担任が活用しやすいように情報を提供する。 ・研修会等を通してタブレット型端末の活用方法を広める。 ・Skypeを用いた遠隔授業を実施する。	

③児童の豊かな心の育成と、自他の良さを認め、互いに協力し合う心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
教育活動	○生徒指導	①安全・防災意識の向上 ②生活指導の徹底	①関係機関と連携して安全・防災意識が高まるような効果的な安全指導、避難訓練を計画的に行う。 ②職員の共通理解による指導を徹底する。 ・アンケートで、「大きな声であいさつ」「正しい廊下歩行」「無言掃除ができる」児童を80%以上にする。	①安全指導や避難訓練についてプロジェクトで話し合い、児童の安全・防災意識が高まるような活動内容を工夫して計画的に行う。 ②各教室、校内にめあてを掲示する。 ・全校朝会、集会、放送等でよい行いを紹介し意識付けをする。 ・全職員共通理解のもとで、見かけたらその場で指導を行う。	生活・特活プロジェクト
	○主体的に取り組む活動の充実	①児童会・委員会活動の充実 ②教科・領域で身に付けた表現力の活用	①児童が活躍できる学校行事や集会等を設定する。 ②表現力・思考力が発揮できる「コンクールへ参加した」と答える児童を80%以上にする。	①児童集会の中で、児童のアイデアを取り入れた委員会紹介を行う。学期はじめに活動の見通しを持たせ、学期末には活動の振り返りや発表を行う。 ②各種コンクールを児童、保護者へ適宜紹介する。	
	●健康・体づくり	体力づくりの推進	・学期ごとの体育的な行事等において体力向上の推進を行う。	・各行事で、自分なりのめあてをもたせ、その達成をめざして努力することを促す。	
	○地域連携等による体験活動の充実	地域教材を活用した学習の充実	①アンケートで、「郷土の資源(人的・物的)を生かした学習活動を年間2回以上行った」と答える職員を90%以上にする。 ②アンケートで、「地域コーディネーターとの連携による学習活動を年間1回以上行った」と答える職員を90%以上にする。	①生活科や総合的な学習の時間等において郷土の資源(人的・物的)を生かした体験活動や表現活動を計画・実践する。 ②各担任が、地域コーディネーターと連絡・調整して外部や地域ボランティアと連携した学習活動を計画・実践する。	学校地域連携コーディネーター

④学校の重点目標や経営方針の達成に向け、働き方改革をめざす教職員集団作りの充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標の周知、徹底	・今年度、新たな重点目標を策定して保護者、児童、教職員への周知徹底度を80%以上とする。	・学校教育目標について、学校だよりやPTA総会で保護者に説明する。 ・学校教育目標について、児童に全校朝会等で説明する。 ・学校教育目標、今年度の重点目標と職員の業績評価、学級目標等との関連付けを図り、学校運営力を向上させる。	管理職
	○学校運営力の向上	①ブロック制による学年経営 ②プロジェクト制による校務運営 ③各種主任、コーディネーターのリーダー性の向上	①アンケートで、「取組(地域連携やPTA行事等)について情報を共有し、必要に応じて管理職への『報・連・相』を行いながら、内容・方法の工夫や改善を行った」と答える職員を80%以上にする。 ②アンケートで、「プロジェクトの会議決定を基本とした取組ができた」と答える職員を80%以上にする。 ③アンケートで、「担当分野の内容改善を進んで行った」と答える職員を80%以上にする。	①ブロック主任、各役員は年間を通じて、日常的に情報の共有を行う。特にブロック主任は、意図的・計画的に教育活動が行われるよう進捗状況を把握する。 ②取組が主体的・組織的に行われ、児童にとって有効なものとなるよう、プロジェクトリーダーを中心として、毎月の取組での重点事項について内容・方法の検討や改善を行う。 ③各担当の内容について、職員会議での提案や連絡会での連絡を欠かさず行い取り組む。	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	①長時間労働の解消 ②業務改善と環境整備 ③業務移管等による取組	①定時退勤実施率100%を目指す。 ②行事や会議の効率化、校務分掌の平準化、校務サーバー等の利活用による効率化を心がけることができた」と答える職員を80%以上にする。 ③学校徴収金の処理が効率よくなったと答える職員を90%以上にする。	①毎週金曜日を「定時退勤日」として定めて周知徹底を図る。また、職員の在勤時間を正確に把握して取組の充実を図る。 ②年度末作成の「引き継ぎ書」、校務サーバー、毎月開催のプロジェクト会議を有効活用して、各担当が効率的な業務を遂行できるようにする。 ③学校徴収金の事務職への移管により、事務処理の効率化を図る。	

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目